

「門を叩け、 さらば開かれん」

113J040 杉本 太志



知識と出会いは、人生を豊かにするのに重要だ。図書館は、私にそれを最も与えてくれた場所だった。私の本好きは筋金入りで、オープンキャンパスの時から図書館を見学していたほどだ。すぐにライブラリー・アシスタント (LA) の募集に飛びついたのは、言うまでもない。初めて書いた履歴書はめちゃくちゃで、笑いあいながら面接を受けたのが、最初の思い出だ。図書館は高校まではなかった、ビデオや CD があった。大学に慣れていきながら、時間を作っては図書館にほぼ日参していた。学友会活動にも色々と手を出していたので、昔の先輩方の残した資料などを探すことにはまっていた頃もあった。学生歌の CD を見つけてきて、先輩方を驚愕させたのはちょっとした自慢話だ。

授業で司書や司書教諭課程を受講しながら、いつかは司書として働きたいとずっと思っていた。LAは何よりも勉強になった。職員と仲良くなって、任せてもらえる仕事が増えることが嬉しかった。学生選書やビブリオバトルにも積極的に参加した。全てが私の中で、経験と思い出として蓄積されていった。3年になる頃に図書館サポーター「セラエノ」の発足に携わった。何をやるにしても前例なし。のびのびと活動させてもらった。図書館総合展に参加した時は、本好きの他大学生と何人も縁が繋がった。私の世界は広がっていくばかりだった。かくして私は、立派な聖学院&図書館マニアとして卒業を迎えることになった。

私はこの思い出全てを、埼玉県の司書職員採用試験の面接で生き生きと話した。それが良かったのだろう。私は上位の成績で試験を合格し、この春から県立学校で司書として働くことが叶った。夢への後押しまで図書館にしてもらった。

私に4年間かかわり続けてくれた図書館には本当に感謝している。皆さんも、図書館でお気に入りの1冊や場所を見つけてみてほしい。そこから、私よりも大きく楽しい思い出を得てくれれば、先輩としてこれほど嬉しいことはない。

(日本文化学科4年)